

物語の情景がありありと浮かぶように歌いたい。



火の国阿蘇の
恵みのブランド

阿
zen
A s o C i t y

楚々とした立ち姿だ。いかにも優美である。

ところが、熊本民謡の代表格「おてもやん」の朗唱が始まると、あたりの空気全体がいつんで張りつめ、昂揚する。

若き民謡師範、内野朝美さんの歌声は

聴く者の心を揺り動かさずにおかない。

少女時代、典型的なおばあちゃん子だった。

大好きなおばあちゃんを喜ばせたい、その一心で、

そうだ、民謡を習おうと決めたのは十九歳のとき。

はじめてお師匠さんのナマの民謡を聴いたときは忘れられない。

「あまりの感激で、わたし、鼻血を出しちゃったんです」

民謡で鼻血を出す人など他にいないだろう、

そこそが特異な才能の表われだった。

めきめき上達し、二十四歳で師範の免許を取得し、二十八歳で

熊本県の大会でみごと優勝、翌年の全国大会にも出場した。

「物語の情景がありありと浮かぶように歌いたいです」

そして、阿蘇の子どもたちにこの文化をしっかりと伝えていく決意だ。

民謡師範 内野朝美

あるがまま、という貴さ。

人と自然が共作する阿蘇。